

# 聴覚障害生徒を対象とした 「難聴擬似体験プログラム」の実践 ～生徒の障害認識と関わって～

鈴木 牧子

筆者は、平成 23 年度より本校高等部卒業生の進学先において、障害理解啓発のための「難聴擬似体験」を行ってきた。平成 25 年度には、そのプログラムを高等部 3 年の聴覚障害生徒を対象に自立活動の時間に実施した。その結果、難聴擬似体験が、聴覚障害生徒自身の障害認識を深め支援ニーズの発見や確認に役立つこと、大学入学後、周囲の人間に積極的に働きかけ障害学生支援システムを構築する意欲を喚起させること等につながるということがわかった。